国　語　科　学　習　指　導　案

日　時　　平成18年11月15日（水）５校時
学　級　　１年４組（男18名女17名　計35名）
授業者　　坂　下　安　紀

1　単元名　　「古典との出会い」蓬莱の玉の枝
2　単元について
（1）　教材観
　学習指導要領では、1学年の「読むこと」の指導事項（オ）「ものの見方や考え方」のなかで、「文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くすること」とある。これは、文章を読んで書き手のものの見方や考え方などをとらえ、それによって自分のものの見方や考え方を広くすることを目的としている。
　この単元は、中学校の古典学習の入門的な位置づけであり、古文の独特な言い回しに慣れることや、歴史的仮名遣いについて正確にとらえることをねらっている。３年間の古典の学習を見通し、読み取りの基本となる事項については、この教材を通じて、定着させることが大切である。
　しかし、仮名遣いや古語の学習だけではなく、その時代の人々の憧れや価値観をとらえ、現代の私達の考えや、感情と共通することを見つけることが、深い読み取りにつながり、「ものの見方や考え方を広げる」という学習の目的に近づくことができると考えられる。
　古典を「難しい」「古い」と思うのではなく、読み味わう面白さを感じられるよう、音読などの学習活動を工夫しながら取り組んでいきたい。
（2）　生徒観
　明るく、意欲的に学習する生徒が多い学級である。音読や漢字の書き取りなどの反復練習に抵抗なく取り組み、学習に向かう姿勢を自らつくろうとしている。
　しかし、文章の読み取りにおいては、感想を聞くと、「おもしろかった」「登場人物の気持ちがわかった」など、単純な感想で終わることが多い。授業においても、主題につながる発問や、登場人物の心情に迫る発問では、表面的な答えに終わる場面が見られ、じっくりと落ち着いて文章を読み味わうことは、やや苦手としている。
　この単元では、この学級の生徒が比較的抵抗なく取り組む、音読の形態を工夫し、古文の持つリズムに読み慣れる活動から、竹取物語のあらすじをつかむことにつなげたい。また、平安時代の人々が望んでいたことや、憧れていたものをつかみ、文章を読み味わうことによって、現代の私達に通じるものを考えさせ、古典を読む楽しさを感じることを目標にしたい。
（3）　指導観
　本校の研究主題は、「意欲的に学習に取り組む生徒の育成はどうあればよいか～基礎・基本の定着を図る指導の工夫を通して～」である。古典の学習にあたり、基礎・基本とは何か。まず、正確に音読できることが第一の目標であると考えた。歴史的仮名遣いや古文独特の言い回しなどに慣れ、正確に音読することで、内容の正確な理解につながるものと思われる。「音読」については、本校の研究内容の中の基礎・基本の定着の手立てとしても取り上げている。そこで、追い読みや一文交代読みなど、さまざまな形態で繰り返し音読し、内容の正確な把握につなげていきたい。
　次に、古文の中から、その時代の人々の感動や価値観をとらえることも大切であると考えた。何に感動し、どのようなことに価値を感じて生活していたかを考えることで、現代の私達に通じるものを見いだし、古典を読み味わい、ものの見方や考え方をひろげていくことにつなげていきたい。話の内容を、できるだけ正確にとらえていくため、本校の研究内容の中で、基礎・基本を定着させる手立ての一つとしている「転写法」による前時の想起を行うとともに、絵や表を活用するなど、興味・関心を高めていく手立ても授業に取り入れていきたい。

3　単元の指導計画及び評価計画
（1）　単元の指導目標
古文に親しみ、平安時代の人々の望みや憧れにふれ、現代に通じる思いや喜びについて考えることができる。

（1） 指導計画と評価計画

時	指導内容	観点別評価基準				
		国語への関心・意欲・態度	話す能力 聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	「竹取物語」あらすじをとらえる。	「竹取物語」の中で、おもしろいと思ったことや不思議だと思ったことをまとめている。			物語のあらすじや構成を理解している。	歴史的仮名遣いが使われている部分を指摘している。
2	「竹取物語」の冒頭の部分を音読し、古文のリズムに親しむ。	歴史的仮名遣いに注意しながら正確に音読することができる。			冒頭の部分の場面や情景を理解している。	歴史的仮名遣いや現代と意味が異なる語句を理解している。
3 本時	「くらもちの皇子の冒険談」について内容を読み取る。	内容を理解し、積極的に音読に取り組んでいる。			くらもちの皇子の言動をつかみ、当時の人の望みや憧れを読み取っている。	歴史的仮名遣いや、現代と意味が異なる語句に注意して読んでいる。
4	「竹取物語」の最後の場面について情景を想像しながら読み取る。	情景を思い浮かべながら正確に音読している。			帝の言動から、当時の人が何を願っていたかを読み取る。	歴史的仮名遣いや、現代と意味が異なる語句を正確に理解している。
5	「竹取物語」の学習全体を振り返り、当時の人々の願いや行動、憧れを考え、まとめる。	大きな声で、正確にすらすらと音読している。			当時の人々の願いや行動、憧れが、現代の自分に通じるものはないか考えている。	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに、現代と意味が異なる語句を現代語に正確に改めている。

4 本時の指導

（1） 本時の目標

・「くらもちの皇子の冒険談」から、「竹取物語」が成立したころに生きた人々の憧れや願いを考えさせる。【読む能力】

・積極的に音読することで、正確に内容を理解させる。【国語への関心・意欲・態度】

・歴史的仮名遣いや現代と意味が異なる語句をつかみ、意味を理解させる。【言語事項】

（2）本時の評価規準

評価の観点	評価規準	具体の評価規準		C努力を要する生徒への支援の手だて	評価場面（方法）
		A十分満足できる	B概ね満足できている		
国語への関心・意欲・態度	内容を把握し、音読している。	情景を浮かべながら正確に音読しようとしている。	歴史的仮名遣いに注意しながら音読している。	範読や歴史的仮名遣いの表を参考にしながら音読させる。	音読（観察）
読む能力	「くらもちの皇子の冒険談」を読み、当時の人々が憧れていたものについてまとめることができる。	当時の人々の望みや憧れを理解し、現在の私達に通じるものを考えている。	当時の人々の望みや憧れをつかみ、説明を聞きながら現在の私達に通じるものを考えようとしている。	当時の人々の望みや憧れを見つけられるよう、繰り返し、本文を読む。	ノートの記入、発言（ノート、観察、発言）
言語についての知識・理解・技能	難解な語句の意味を理解し歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。	現代と意味が異なる語句や歴史的仮名遣いの部分を自分で見つけ、現代の言葉や現代仮名遣いに正しく直している。	現代と意味が異なる語句や歴史的仮名遣いの部分を、教師や友人の意見を聞きながら現代語に直している。	現代と意味が異なる語句や歴史的仮名遣いの部分に線を引かせ、「いろは歌」の表を活用しながら、現代仮名遣いに直させる。	ノートの記入、発言（ノート、観察、発言）

（3）研究内容との関わり

ア　本時の基礎・基本

・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して、正しく音読する。

・「くらもちの皇子の冒険談」のあらすじを理解する。

イ　定着を図る指導の工夫

・音読・・・さまざまな形態の音読を取り入れることで、古文のリズムに慣れる。
歴史的仮名遣いや現代と意味が異なる語句に注意して音読することで、内容の理解につなげる。

・反復・・・前に学習した「いろは歌」の表を活用することによって、仮名遣いについての知識を定着させる。

・転写法による「竹取物語」の冒頭部分の想起・・・成立の背景や登場人物の確認

ウ　動機付けの工夫

・図や表を活用し、視覚に訴える。【興味・関心】

・さまざまな音読の形態を取り入れることで、一人一人が活躍する場面を作る。【有能感】

・人々の望みや憧れは、今も昔も共通するものがあることをとらえさせる。【有用感】

（4）展開

段階	学習内容・学習活動	指導及び支援の手立て ○指導の留意点★支援	評価の視点 ※具体の評価規準 （評価方法）	研究内容との関わり
導入 5分	1　前時を想起する。 2　学習課題を確認する。	○「竹取物語」の冒頭の内容ついて想起する。 ★「竹取物語」の冒頭の場面の絵を活用して確認する。 ○課題を音読して意識付けを図る。	【興味・関心】 ※A冒頭の内容をおおまかに想起できたか。 B冒頭の内容について発言を聞きながら確認しているか。 （発言、観察）	転写法 教材の工夫 【興味・関心】
	「くらもちの皇子の冒険談」から、平安時代の人々の望みや憧れを考えよう。			
展開 35分	3　「くらもちの皇子の冒険談」の原文を音読する。	○追い読み、一文交代読みなど、さまざまな形態で音読に取り組む。 ★読み方に自信がない点は、お互いに確認させる。	【読む能力】 ※A情景を思い浮かべながら音読しているか。 B歴史的仮名遣いに注意して音読しているか。 （観察）	◎音読 反復 【有能感】
	4　「くらもちの皇子の冒険談」のあらすじを確認する。	○あらすじの確認をし、意味がわからない語句や、難解な仮名遣いをあげさせ、確認する。 ★「いろは歌」の表を参考に考えさせる。	【言語事項】 ※A難解な語句や仮名遣いを正しく現代語に直しているか。 B発言を聞きながら、難解な語句や仮名遣いを現代語に直そうとしているか。（発言）	教材の工夫 【興味・関心】
	5　「くらもちの皇子の冒険談」の内容を把握する。	○現代語訳と古文の対訳読みなど、音読を通して確認する。	【読む能力】 ※A望みや憧れをくらもちの皇子の行動からつかんでいるか。 B望みや憧れを教師や友達の説明を聞きながらつかんでいるか。（観察、ノートの記入）	◎音読
	6　「くらもちの皇子の冒険談」から、当時の人々の望みや憧れを考える。	○平安時代の人々の望みや憧れについてくらもちの皇子の行動から考える。 ★微音読をし、もう一度内容をふり返るように指示する。		
終結 10分	7　他の皇子の話を読み、当時の人々の望みや憧れを確認する。 8、自己評価をする	○他の皇子の話を読み、当時の人々の望みや憧れを検証する。 ○自己評価を記入する。	【読む能力】 ※A現代の私達に通じるものを見つけようとしているか。 B説明を聞き現代に通じるものを理解しようとしているか。（発言、観察、ノートの記入）	【有用感】